

平成 16 年 10 月 3 日
国土交通省中部地方整備局
独立行政法人水資源機構中部支社

お 知 ら せ

1. 件 名

台風 21 号による出水における岩屋ダムの洪水調節効果について

2. 概 要

平成16年9月28日から30日にかけて、台風21号の接近と秋雨前線の通過により岐阜県は大雨に見舞われました。

木曾川水系馬瀬川の岩屋ダム流域では、8月28日夕方から30日早朝までに、累計約107mm（岩屋ダム流域平均雨量）の降雨を観測しました。特に30日0時の時間最大雨量は、約19mm、29日22時から1時までの3時間雨量は約32mmを記録しました。

この降雨により、岩屋ダムでは、30日3時20分に洪水流量（300m³/s）に達し、その後、流入量は、30日4時40分には最大約510m³/sとなりました。

岩屋ダムの貯水容量内への洪水貯留により、下流基準地点（東沓部地点）において、約1.74mの水位低減があったものと推定され、下流河川の洪水を軽減しました。

なお、今回の出水により岩屋ダムの利水容量（61,900千m³）は満水となりました。

3. 雨 量

流域平均雨量	約 107 mm
	(降り初めから累計値：28日21時から30日12時まで)
ダム地点雨量	約 104 mm
	(降り初めから累計値：28日21時から30日9時まで)

4. 岩屋ダム洪水調節量

ダム最大流入量	30日4時40分	約 510 m ³ /s
ダム最大放流量		約 0 m ³ /s
洪水調節量		約 510 m ³ /s
(参考：馬瀬川への馬瀬川第2ダム最大放流量		約 1 m ³ /s)

5. 下流基準地点での効果推定値

ダムが貯水容量内に洪水を貯留することによって、東沓部地点での実績最高水位は、3.66mでした。

ダムが貯留を行わなかった場合の東沓部地点での河川水位は約5.40mと推定されます。（この値は、東沓部地点の実績流量に、岩屋ダム地点の洪水調節量を加算して、算定した河川水位の推定値です。）

その結果、東沓部地点で約1.74mの水位低減効果があったものと推定されました。

※東沓部地点 岩屋ダム下流約9.3km、飛驒川本川合流前約7.5kmの地点
住所：岐阜県下呂市金山町東沓部字前田会津1458

6. 配布先

岐阜県政記者クラブ

7. 問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 岩屋ダム管理所 所長代理(技) 田原 秀光
電話 0576-35-2339

国土交通省 中部地方整備局 木曾川上流河川事務所
流水調整課長 大塚 康司
電話 058-251-3234

岩屋ダムの洪水調節効果(東沓部地点)

左岸

右岸

岩屋ダムが貯留を行わなかった
場合の想定水位 約4.26m

ダムによる水位低減効果
約0.90m

実績最高水位 約3.36m

※東沓部地点: 岩屋ダム下流約9.3km、飛騨川本川合流前約7.5kmの地点
(住所: 岐阜県下呂市金山町東沓部字前田会津1458)



